

ぼくのヒーロー

山手小学校

三年

松野

光吉

ぼくの朝は、いつもごはんからはじまります。朝の光びキラキラとかがやくまっ白なごはんをパクリと食べるとねむが、目がパチリとさめます。たまたこのごはんは、あまいかおりがして、かめばかむほどあまい味がします。おなかがいっぱいになるとおなかをみたくれるお米は、ぼくのヒーローです。

お米は、そのまま食べてもおいしいですがおにぎりやチャーハン、どんぶりごはんなどにしてもおいしいです。そして、ごはんにはきなこをかけてもおいしいです。時には、形をかえて、もちになったり、餅になったり、いろいろな形にへんしんしてぼくのおなかをみたしてくれま

す。ぼくが食べているごはんは、おじいちゃんがかけてくれるお米です。おじいちゃん、五十年くらいお米を作っていて、一つひとつおいしいよとこめて作っています。おじいちゃん

ちゃんを作るお米は、世界一おいしいお米です。そのお米を作っているおじいちゃん、ほん、ほんのスーパーヒーローです。

ほんは、野球が大好きです。そして、メジャーリーグのエンズモルズの大谷しよ、平せん手の大ファンです。大谷せん手の本を読んでみると、高校生の時、ごはんをどんぶりでご飯三ばい、板走はりの食事トレーニングをして、大きくてけがをしないう強い体を作ったそうです。それが今の「大谷せん手の世界一のかつやく」につながっていると思います。だからお米のパワーは、すごいなと感じています。ほんも大好きな手みだいに野球が上手になりました。なので、今よりも、もっとたくさんごはんを食べて大きくなりたいです。そして、お米を作ってくれているおじいちゃん、いつもありがとう。